		科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
		能障害学 	専門基礎	Ⅱ部3年(通年)	講義	30	1
		旦当教員		実務経験			
		大村 大 	回復期病院にて1年、急性期病院		て訪問看護ス	テーションで5年	間従事する。
			講義根				_
リハビ 解する		-ション医療の目的に	はADL能力向上であるが、·	そのADL能力低下	の原因であ	る機能障害に	こついて理
			講義目	目標			
			発生のメカニズムや廃用症	候群を理解する。			
【一般	目標】	機能障害の回復過					
			の介入方法を理解する。				
【行動	目標】	症例情報から評価 症例情報から病態	項目の列挙ができる。 考察ができる。				
回数			授	業内容			
1			:	炎症			
2			急性痛	·····································			
3			慣	计 折①			
4			~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	计折②			
5			麻				
6			麻	·····································			
7			呼吸	器疾患①			
8			呼吸	器疾患②			
			書		参考図	書	
機能障	害科等			標準理学療法学・作			
				標準理学療法学・作	業療法学 内	科学	
				標準理学療法学・作	業療法学 病	理学	
		評定方	法		準備物•注意	意事項	
授業内]課題1	00%		なし			

	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
:	理学療法セミナーⅢ	専門科目	Ⅱ部3年(通年)	演習	60	2					
	担当教員	如。去羊产牛1--	実務経		1 + + 1 1 0 1 1 -	5.1-5 ケ88 少 *					
	柳本 展孝 一般・療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従事 講義概要										
m# 1											
臨床	a床において理学療法士に必要な基本的検査技術と対象者への配慮について、演習を通じて習得する。 										
	講義目標										
 	基本的検査測定項目の意義・目的を理解する。 -般目標】基本的検査測定項目実施時の注意点やリスクを理解する。										
一万文	-般目標』基本的検査測定項目美施時の注息点やリスクを理解する。 										
	基本的検査測定項目の目的や方法、注意点が伝わるようオリエンテーションができる。										
【行動	=	理を行いつつ、基本的検査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			_						
口米		三項目実施時に、対象者へ	の負担や検査の再現[授業内容	生を考慮でき	:る。						
回数		A - 4-	,,,,,,,,,								
1		深部	腱反射、筋緊張亢進								
2		病	的反射、表在反射								
3		表在愿									
4		深部感覚(位置覚	党、運動党、振動党)、	複合感覚							
5			実技演習								
6		実技	 試験(腱反射、感覚)								
7		高次脳機	 能検査(注意、遂行機能	탈)							
8		高次脳機能検	査(半側空間無視、身体	 \$失認)							
9		高次脳機能検	査(観念失行、観念運動	 协失行)							
10		バラ	 ンス評価(姿勢反応)								
11		バラ	ンス評価(FRT、TUG)								
12			ス評価(FBS、BESTest) あ(10m歩行、6分間歩行))							
13			と評価(TCT、TIS、FACT)								
14		実技試駅	(姿勢反応、FRT、TUG)							
15			歩行観察演習								
	l			参考図書							
PT•01	「ビジュアルテキスト リハビ	リテーション基礎評価学 病気が	みえる vol.7 脳・神経								
	評定方法 準備物・注意事項										
実技訓	実技試験:前期 50%+後期 50%=通年 100% 実技の身だしなみは【講義に関する注意事項】に準じる										
	聴診器、メジャー、ゴニオメーター、打腱器などの検査器具										
		実技教	室ではクリップボードを使	使用すること							

			1 计以 生于凉丛于								
		科目名 	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数				
		肢装具学	専門科目	Ⅱ部3年(通年)		60	2				
		旦当教員 香、富士郎	同復期 井浜期の寓動	実務経験 器・中枢神経疾患の理学療法業務を中心に5年間従事							
	向作	喬 眞太朗) 理子療法未	き務を中心に)年间促争				
切断。	調義概要 切断や機能障害を呈した患者に対する義肢、装具の基礎的知識を学習する。										
	義肢、装具を使用した際の生体への影響を学習する。										
	講義目標 切断の原因、手術、断端管理の方法と、切断部位ごとの義肢の名称を知る。										
 	一一一				名称を知る。						
【一河文	一般目標】 義肢、装具の基本的構造と、生体に与える影響を知る。 切断後のリハビリテーション、疾患別の装具療法が理解できる。										
			、断端管理の方法と、切断			 および列挙で	きる。				
【行動	目標】		的構造と、生体に与える影		-						
— ster		適切な義肢・装具を	と選択し、その後のリハビリ		用方法が説明	明および列挙	できる。				
回数			授	業内容							
1			オリエンテーション	切断の疫学 模擬郭	養足体験 ————						
2			義肢学総論①(切断原因	因、切断部位と義肢	の名称)						
3			義肢学総論②(切	断手術、義肢の名称	尓)						
4			義肢学総論③	(理学療法評価)							
5			義肢学総論④(断端	管理、義肢の構成	要素)						
6			義肢適合の流れ(アライメントの概念	 						
7			下腿義足①(基本と義肢構造)							
8			下腿義足②(アラ	 イメントと異常歩行							
9			大腿義足①(基本と義肢構造)							
10			大腿義足②(アラ	イメントと異常歩行							
11				歩行まとめ①							
12				歩行まとめ②							
13			股義足(基本構	造とアライメント)							
14			その他の義足(朋)						
15			上肢均	刃断と義手							
					参考図	書					
PT•0	Tビジュ	アルテキスト義肢・装		15レクチャーシリース			!				
				15レクチャーシリース		キスト 装具学	!				
		577 c 5	?+	義肢装具学(医学書		生由 1					
宁地手	# Re · 音位	押 50% 土 後期 50%	法	選業 /L / 選挙吐/-	準備物•注源 - 配布予定) <i>"</i>	_ • • •	ボールペン・				
佐州部 	定期試験: 前期 50%+後期50% 講義ノート(講義時に配布予定)、3色(赤・青・緑)ボールペン 3色(赤・青・緑)蛍光ペン、指定教科書を持参すること。										
				授業中は必ずメモを		1日CN970	, — <u> </u>				
				·							

			17 2020 十1文	ראינים נאינים נו ם							
	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
	運動療法学	専門科目	Ⅱ部3年(通年)	演習	60	2					
	担当教員	実務経験 実務経験 回復期病院にて1年、急性期病院で3年間従事。併行して訪問看護ステーションで5年間従事。									
	木村 大 			付して訪問有語	長スナーションで	5年間征事。					
理学组	療法の中核的な治療手段	である運動療法について、	その理論的背景を	学び基本的	な技術を習行	导する。					
		講義	目標								
了 一般	運動療法の方法と理論的背景を理解する。 -般目標】 (関係) なおもの はまたな (関係) による (関係) はまたな (関係) はまなな (関係) はまなな (関係) はまなな (関係) はまなな (関係) はまなな (関係) はまなな (関係)										
192	連動療法の基本的知識と基本的技術を習得する。										
		基本事項を記述できる。 b・種類・原則・方法を選択)	ひびきごせるキス								
【行動		『・種類・原則・万法を選択』 『動方向を理解した上で目		トレッチング	を宝施できる						
K 1 J = 3/J		上で、他動的に関節可動均				'0					
		揮しやすい抵抗運動や自		-							
回数		授	業内容								
1		オリエンテ	ーション・総論								
2		関節可動域の改善	 :①関節可動域と『	 章害							
3		関節可動域の改	善 ②関節可動域運	 [動							
4		関節可動域の改	善 : ③ストレッチン	· グ							
5		講									
6		関節可動域運動の実際	 : ①ストレッチング	·····································							
7		関節可動域運動の実際	 : ②ストレッチング	 `(下肢)							
8		関節可動域運動の実際: ③)ストレッチング(f	 本幹・上肢)							
9		関節可動域運動の実際 関節可動域運動の実際	 : ④ストレッチング	`(上肢)							
			 実際:⑤ストレッチ								
10			(体幹まとめ								
11		実技試験:	ストレッチング								
12		関節可動域運動の	実際:①関節包内道	運動							
13		関節可動域運動の	実際:②関節包内道	運動							
14			実際:③関節包内道 下肢まとめ	重動							
15			: 関節包内運動								
	指定教科		TID 24 ch . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 .	参考図	_	- > 1 314					
シンプ 	シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト 理学療法学ゴールド・マスター・テキスト 運動療法学 理学療法学 障害別アプローチの理論と実際										
			埋字療法字 障害別 セラピストのための機			₺∙体幹∙ ⊦ 時					
			こうころ「ひんひりが	準備物・注意		~ rr+T 上IX					
【成績	】前期50%+後期50%=10		実技の身だしなみは		_ , ,,						
	実技試験50%+講義内試験		実技教室ではクリッ		- · - · - · - · -						
後期:	実技試験50%+講義内試験	美50%=100%	配布資料は忘れず	こ持参すること	<u> </u>						
1											

	科目名 運動器理学療法学	科目区分 専門科目		対象学年 Ⅱ 部3年(通年)	講義形式 演習	授業時数 120	単位数 4				
	理 <u>到奋</u> 理子療法子 担当教員	専門件:	1	エポッサ(週十) 実務経		120	4				
		外来リハビリ・急性期線	大分が生み 病棟等で6年間従事。高校野球のサポート等も経験。現在も整形外来の理学療法業務に従事。								
			講義村	既要							
運動	運動器疾患における病態や合併症、禁忌事項について学ぶ。運動器障害に対する理学療法評価・治療を学ぶ。										
			講義[
【一般	運動器疾患の概要に登目標】運動器障害の患者に	対する理学療法評価と	:治療の項目を	理解する。スポーツ障							
	各疾患の特性を理解した上で、整形外科的検査の方法を習得する。 運動器障害を有する患者の理学療法評価を列挙できる。スポーツ障害・外傷の発生機序を説明できる。										
【行動	運動器障害を引き起う 1目標】運動器障害を引き起う										
1132	整形外科的検査を正確				/	,					
回数			授	業内容							
1		運動器	野学療法と	は①:組織の治癒	過程						
2		運	動器理学療法	生とは②:受傷機 輔	Ā						
3			疼痛	について							
4			疼	痛検査							
5			疼	痛検査							
6		上肢骨折	と理学療法①	〕:鎖骨骨折・上腕	· 宛骨骨折						
7		上肢骨护	fと理学療法	②:上腕骨骨折と	合併症						
8		上肢骨折	と理学療法の	3):前腕骨折·手队	関節骨折						
9		肩関節疾患	の理学療法①): 基礎と非外傷性	生不安定症						
10		肩関節	が疾患の理学	療法②:肩関節周	囲炎						
11		肩関	関節疾患の理	学療法③:腱板断	裂						
12		ス	ポーツに関オ	っる上でのPTの役割	判						
13		スポ	ーツ障害とは	は・スポーツ外傷と	とは						
14		上肢疾患	見(ノンコン	タクトスポーツを	例に)						
15		上肢疼	€患(コンタ	クトスポーツを例	(=)						
	指定教科書				参考図書						
Crossl	ink 理学療法学テキスト 運動			いらアプローチする							
				ト! 整形外科疾患 こめの機能解剖学的							
			建划尔/5 0/1		^{内煕} が投術 備物・注意事	項					
定期記	式験:前期+後期=70%		 実技の身だL	なみは【講義に関す							
	式験:前期+後期=20%			験時は、安全に行		_					
症例	検討∶前期+後期=10%		実技教室では	はクリップボードを使	用すること						

			専門学校理					講義要領_	1 32 11 341	
		科目名 器理学療法学	科目区			象学年	講義形式 演習	授業時数 120	単位数 4	
		6连子愆 <u>运子</u> 旦当教員	専門科	<u> </u>	П 🖆	3年(通年) 実務経		120	4	
		<u> </u>	外来リハビリ・急性期	 病棟等で6年間	 従事 。 高			 在も整形外来の	 理学療法業務に従事。	
	講義概要									
運動	重動器疾患における病態や合併症、禁忌事項について学ぶ。運動器障害に対する理学療法評価・治療を学ぶ。									
7 60	. 🗆 🛲 🕽	運動器疾患の概要につ								
【一般	日標』	運動器障害の患者に対 各疾患の特性を理解し					『吾・外傷の符	性を埋解し予り	江法を検討できる。	
		運動器障害を有する患					 発生機序を説 [[]	 明できる。		
【行動	目標】	運動器障害を引き起こ	す疾患にあわせた運	運動療法や物理	里療法、	装具療法を選択	尺・列挙できる。)		
		整形外科的検査を正確	筐に実施し、意義を踏							
回数				授	受業内:	容				
16			上肢疾患	(メディカル	レリハ	・アスレチッ	クリハ)			
17			下月	技骨折と理算	学療法(①:大腿骨骨	折			
18			下肢骨折	「と理学療法	②:下	腿骨折・膝蓋	差骨骨折			
19			下	肢骨折と理	学療法	③:足部骨护	Г			
20				膝・足部	疾患の	理学療法				
21				整形外科的	検査	(上肢編)				
22				整形外科的	検査	(上肢編)				
23				整形外科的	検査	(上肢編)				
24				整形外科的	勺検査	実技試験				
25				症	例検討	·①				
26				症	例検討	2				
27				症	例検討	·3				
28				症	例検討	· 4				
29				症	例検討	·(5)				
30				症	例検討	· 6				
		指定教科書	00 04 da -m W -t - 1 ···				参考図書	= 1		
Crossl	ınk 埋字	፟療法学テキスト 運動	奋 阿吾埋字撩法学			プローチする 整形外科疾患		 類療法		
				1		stが外件疾患)機能解剖学的				
		評定方法					備物·注意事	項		
定期語	定期試験:前期+後期=70% 実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる									
		ī期+後期=20%				は、安全に行		の注意を払う	2	
症例构	負討:前	ī期+後期=10%		実技教室で	はクリ	ップボードを使	用すること			

		1/11	<u> </u>	<u>, VI (</u>	<u> </u>	<u> </u>	7 I).) \D				
	科目			科目区		対象学年	講義形式	授業時数	単位数		
	神経理学		学	専門科	計目	□ 部3年(通年)		120	4		
	担当				1/右 廿0 * =	実務経		+++ >1	· 击		
	小財 鍬田					ーション病院にて中枢 ハビリテーション病院に					
神経	神経疾患に対する評価方法と、治療アプローチを学習する。										
1142		O B116		707,777							
	神紅	· 连连患σ	の代表的な	 評価と治療アプ		養目標 できる。					
【一般				犬を踏まえて、遊							
	神糸	経疾患を	と持った患者	当の情報、評価 額	結果から、必要	要な治療プログラムを	知る。				
アノーチム	神経疾患を提示された際に、行うべき代表的な評価項目と治療アプローチを選択、列挙できる。 り目標】神経疾患によって出現している症状に対し、適切な評価を正確に実施できる。										
【仃虭						評価を止催に美他(要な治療プログラムを		根拠が説明でき	きる		
回数	174.		210 272763			受業内容	<u> </u>	1K1/2/3 B/C-51 C C	_ 0 0		
1						ンテーション					
-					脳卒中	後片麻痺の病態					
2					中枢性運動	障害に対する評価					
3					脳梗塞の	考察:症状の列挙					
4				ブ.	ルンストロー	-ム片麻痺機能検査	総論				
5				ブル	ンストロー.	ム片麻痺機能検査:	上肢				
6				ブルン	ストローム片	麻痺機能検査:下	肢・手指				
7				ブル	ンストローム						
8					試験:ブル	ンストローム片麻痺					
9					脳梗塞の	 考察:画像の解釈					
10				j		 					
11				j	脳卒中後片麻	調点の 300 機能回覧 「痺に対する理学療 ・ニングと概念					
12				J		<u>ーン/ C 概念</u> [痺に対する理学療 「、装具療法	 法				
13				•		、					
14						ホット冶漿、合併 察:評価項目の列挙					
15				Air		こ対する急性期の介	入				
10		+6 📥	おりま	基本	概念、リスケ	ク管理、ポジショニ					
15レク	チャーシリ		₹教科書 ●経障害理		PT•OT入門		参考図書_ 平価学				
	クチャーシリーズ 神経障害理学療法学 I PT・OT入門 イラストで分かる評価学 クチャーシリーズ 神経障害理学療法学 I 標準理学療法学 神経理学療法学										
	定期試験:前期37.5%+後期45%=82.5% 実技の身だしなみは【講義に関する注意事項】に準じる										
	式験:前期7 食討課題:前		⊥後₩50/-	1004		まと配布資料を忘れる 神経内科学の講義:					
延1列位 	央討 誄題:月]朔5%	+仮朔3%=	10%		神経内科学の講義┊ はクリップボードを使り		9-C			
					一大以外主に	ァノフノノハー ごと 使た	11 5 OCC				

		等门字校 埋于 到日底八				再我安 <u>识</u>	224 1 L 14 L
÷4.	科目名 経理学療法学	科目区分		付象学年	講義形式	授業時数	単位数
作中	程理字療法字 担当教員	専門科目	1 1 1 1	3年(通年) 実務経	講義	120	4
	小財 知幾	同復制	 期リハビリテーショ			法を由心に5年後	 Y重
	鍬田 幸輔	介護老人保健施設					
			講義概要				
神経疾患	に対する評価方法と、	治療アプローチを	学習する。				
			講義目標				
6几 🖂 +=	神経疾患の代表的な						
加又 口 1示	神経疾患を持った患				·知る。		
	神経疾患を提示され					 J挙できる。	
(行動目標	神経疾患によって出						
	神経疾患を持った患	者の情報、評価結果	から、必要な治療	寮プログラムを	選択し、その	根拠が説明で	きる。
回数			授業内	_			
16		脳卒中片	麻痺に対する急 基本動作		もの実際 		
17		脳卒中片	麻痺に対する急 基本動作		もの実際		
18		脳梗塞	ミの考察:疾患	と評価をつな	げる		
19			で後片麻痺に対す は、痙縮への対抗				
20			『後片麻痺に対 [.] 降など自宅復帰				
21		胞	ú梗塞の考察:!	動作と問題点			
22		維持期の理学	学療法と高次脳	機能障害への	アプローチ		
23			脳卒中の総	合評価			
24		F.	脳梗塞の考察:	評価と治療			
25		症(例検討:症例提 ————————————————————————————————————	·示、動作観察	<u> </u>		
26			症例検討:	苪態考察			
27		症例 	検討:評価項 	目の列挙→病	態		
28			症例検討:評(西結果解説			
29			症例検討: ————————————————————————————————————	目標設定			
30	↓⊬∴ ⊬√ ⊀/∟ ₹√. ±	<u> </u>	症例検討:問題 ————	動作の分析	* ******		
51 カエト	生産	B 学 族 注 ヴェ ロー	T・OT入門 イラ	フトでひかてぎ	参考図書		
	一シリーズ 神経障害理		・0 人[7] 1ラ 準理学療法学				
	評定方法			<u> </u>	備物∙注意᠍		
	前期37.5%+後期45%=		技の身だしなみ				
	前期7.5%		6定教科書と配布 - 理党 エー神経 #				
正例使討認	果題:前期5%+後期5%=		Ξ理学Ⅱ、神経内 ミは数字はクリッ			る ∟と	
		美	を 技教室はクリッ	ノ小一トを使用	19 ること		

			専門学校_	理学療法	学科 2025年度		講義要領			
		科目名		区分		講義形式	授業時数	単位数		
		理学療法学	専門	科目	Ⅱ部3年(通年)	講義	120	4		
		旦当教員			実務経					
		根 好史			ステーションなどで地域理学療法:					
	17/	本展孝	一般・療養		退骨頸部骨折、脳卒 養概要	中、透析思	は有などの治	撩1⊂5年间促争		
2出 年10										
					7起囚となる裾脉病 −での痰吸引技術を		別のはその特	似を子首し、て		
	, ,,,,,,		3,100 GO G1721		返目標	12.500				
		内部障害といわれる循	 環器機能障害、		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 対疾患につい	 て理解する。			
₹ én	T	疾患それぞれに起因す	⁻ る運動機能障害	『や回復過程、予	後等に関する知識を整理	理する。				
一般	と目標】	それぞれの疾患に対し	て、リスク管理や	運動療法、日常	生活指導などの理学療法	法における理	論と技術を習得	する。		
		障害の改善だけでなく -	予防の観点から	も疾患の理解を深	そめる。					
		呼吸器の構造と機能を	理解し、記述でき	き、説明できる。						
·					プローチについて理解し		説明できる。			
【行動					変吸引技術が実施できる * *	5 。				
		虚弱高齢者や低体力を症例検討を行い、呼吸								
回数		証例快部で110、呼吸	命沃思思有 700		男できる。 一 受業内容					
1				呼吸リハヒ	リテーション総論					
2				•	吸器の理解					
					器に関する解剖学					
3					吸器の理解 器に関する運動学					
					吸器の理解					
4				③呼吸	器に関する生理学					
5				体	位排痰法					
				nti nTi	- 大総会に介言で(本					
6					v機能の評価 関する理学療法評価					
7										
				Π <i>7</i>	代が代1工が中央					
8				痰吸引	(理論と背景)					
					・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
9					関する理学療法評価					
10				痰嗄	及引(実践)					
11				②肺気量分画	v機能の評価 ③フローボリュ	ーム				
12				フィジナ	 ルアヤスメント					
12										
13					:呼吸理学療法の理角 ①COPDとは	2 牛				
						t-i)				
14				フィジカルア1 	セスメント(体表解析	到)				
15					: 呼吸理学療法の理角					
		化中华科夫		(2)COPD(C)	対する理学療法評価					
内部院	音宝 理点	指定教科書		田学 處 注 ,	いいドブック 笠2米	参考図書				
ւյրին	部障害理学療法学テキスト 理学療法ハンドブック 第3巻 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト内部障害理学療法学 呼吸									
	「ロンノノヤーンリーへ母子療法子」イスト内の障害母子療法子・呼吸 内部障害のリハビリテーション など							— 1 ·· 1·//		
					, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					
		評定方法			準値	備物・注意♀	事項			
定期記	E期試験 前期40%+後期40%=80% 実技の身だしなみは【講義に関する注意事項】に準じる									
		期5%+後期5%=10%			はクリップボードを使用					
提出物	勿(症例	検討)前期5%+後期5	%=10%	症例検討問	特にはノートPC持参を	求める場合	がある			

授業時に配布・指定するプリントを忘れないこと

		字门子校 5	<u> 里子撩</u> 法子	24 2025年度		講義要領			
	科目名	科目区		対象学年	講義形式	授業時数	単位数		
内:	部理学療法学	専門科	排目	Ⅱ部3年(通年)	講義	120	4		
	担当教員			実務経					
	山根好史	康養病床、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどで地域理学療法を中心に10年従事。併行して整形外科外来で定期的に25年従事。 一般・療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従事							
	柳本 展孝	一般"撩食衲	保I〜 C、入版 講義		- 中、近何思	は有などの治療	打-5年间從事		
運動陪宝	 において重要な心肺様	************************************	11,000		を由心には	郵陪宝の特徴	かた学習! チ		
	法についての理解を認					1010年 ロ へんしむ	以でデロし、C		
			講義	目標					
	内部障害といわれる循环	環器機能障害、呼	吸機能障害、代	謝機能障害などの起因	因疾患につい.	て理解する。			
【一般目標	疾患それぞれに起因す								
	それぞれの疾患に対して				法における理	論と技術を習得る	する。		
	障害の改善だけでなく予 呼吸器の構造と機能を			<u>უგ.</u>					
	代表的な呼吸機能障害	,		プローチについて理解し	記述できま	逆田できる			
【行動目標	り目標】基礎的な呼吸介助手技、排痰手技、シミュレーターでの痰吸引技術が実施できる。								
	虚弱高齢者や低体力者								
	症例検討を行い、呼吸器	器疾患患者へのか	かわり方を説明	lできる。					
回数			授	業内容					
16		フィ	ィジカルアセス 	スメント(聴診・打	「診)				
17		Ţ		呼吸理学療法の理角 ニ対する理学療法	2 件				
18			呼吸	设介助手技					
19		[呼吸理学療法の理角 対する理学療法	4				
20			呼吸障	害のADL指導					
21				呼吸理学療法の理解 器疾患に対する理算					
22			呼吸障害	のデータ検討					
23			外科手術	後の呼吸器障害					
24			人工呼吸器	몽と在宅酸素療法					
25				E例検討					
26				E例検討					
27			<u></u>	E例検討 					
28			拉	E例検討					
29				E例検討 ———————					
30	北古北和中			E例検討 	全 之同士				
内部陪宝刊	指定教科書 理学療法学テキスト		理学療法ハ	 ンドブック 第3巻	参考図書				
r JUNE T	エルボムナノコハい		15レクチャー	ンドンケン 第3名 -シリーズ理学療法学 リハビリテーション 氵		部障害理学療法	去学 呼吸		
	評定方法				備物•注意될	事項			
定期試験	前期40%+後期40%=80)%	実技の身だ	ーーー しなみは【講義に関す					
小テスト 育	小テスト 前期5%+後期5%=10% 実技教室はクリップボードを使用すること								
提出物(症	例検討)前期5%+後期5%	=10%	症例検討時	にはノートPC持参を	求める場合だ	がある			

授業時に配布・指定するプリントを忘れないこと

		一个			我安识	***					
	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
	理学療法治療学 担当教員	専門科目	Ⅱ 部3年(通年) 実務経		60	2					
	担国教員 内原 由佳子	病院・通所リハ・老健に計			10年間従	 虫					
	<u> </u>	講義相		<u> </u>	C 10 -	70					
日常生	日常生活活動(ADL)の概念を理解するとともに、ADL評価や移動補助具の基本的知識・技術を習得する。										
	講義目標 ADLの概念、ADL評価(FIM・BI)の目的と項目および方法を理解する。										
【一般		泮価(FIM・BI)の目的と項目 子・歩行補助具)の種類と構		-) _o						
	各動作における介助方法を知る。										
【⁄字新		评価(FIM・BI)の目的と方法 子・歩行補助具)の種類、精		_							
		助方法を学生同士で実施で		1子 (この。							
回数			* 業内容								
1		日常生活動作	作(ADL)総論①								
2		— 日常生活動作	作(ADL)総論②								
3		FIN	lの概要								
4		FIM: セ	ルフケア①								
5		FIM: t	ルフケア②								
6		FIM:排泄	コントロール								
7		FIN	Ⅰ:移乗								
8		FIN	1 : 移動								
9		FIM:	認知項目								
10		Bart	hel Index								
11		講義内試験	① / 福祉用具								
12		移動介題	助(T字杖)								
13		移動介則	力(松葉杖)								
14		移動介耳	力(車椅子)								
15		講義内試験② /	⁄ 患者・対象者教育	<u> </u>							
	1 指定教科	斗書		参考図	_						
脳卒中	「卒中の機能評価SIASとFIM [基礎編] シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト										
			リハビリテーション医療 ウィメンズヘルス リ			のガイドライン					
		法	・ソイトン人へルス リノ	ハヒリテーショ 準備物・注意							
成績:	<u> </u>		実技教室ではクリッ								
	講義内試験2回(①30%+②2		実技の身だしなみ【			≜じること					

		科目区分	対象学年	<u> </u>	授業時数	単位数					
	 臨床理学療法学	専門科目	Ⅱ部3年	演習	30	1					
	担当教員	7131114	実務経								
		介護老人保健施設・回復期リハビ			 学療法を中心に	12年間従事。					
理学组	理学療法士の臨床思考過程(理学療法プロセス)を理解し、考察課題に取り組むことで問題解決能力を養う。										
		講義	目標								
,		-連の流れを理解する。 - ************************************	.n. L. 7								
【一般 	=	とことに必要な考察を理解のなった									
	症例検討を通じて、臨床における問題解決方法を知る。 臨床思考過程の一連の流れを説明できる。										
【行動		達の流れを読めてきる。 と階ごとに必要な情報を整ま	Ⅲ 記述できる								
K 1 J = 3/3	=	は									
回数	722 17 3 113 TIX C PARK 177 B		<u>業内容</u>								
1		理学療法プロ	ロセス、症例提示								
<u> </u>		症例ノ	一トS主訴								
2			- ト0情報整理								
3		症例ノ 病態考察・評価項目	ソートA・P 目列挙(ボトムア∵	ップ)							
4		症例 <i>。</i> 動作観察・評価項目	ソートA・P 目列挙(トップダΓ	ン)							
5		評価結果の提示、	症例ノートA結果 <i>σ</i>	解釈							
6		症例ノートA 問題点抽出、目標設	・P統合と解釈、 定、治療プログラ	ム立 案							
7		ICFシ	一ト作成								
8		評価サマリー作	作成、プレゼン説明	月							
9		症例提示、症例	ノートS・0情報整	理							
10		症例ノート0動	作観察・A病態考察	菜							
11		症例ノート	·P評価項目列挙								
12		評価結果の提示、	症例ノートA統合と	:解釈							
13		症例ノートA問	題点抽出、目標設!	定							
14		症例ノートP治	ì療プログラム立案	ξ							
15		評価サ	マリー作成								
	指定教科書										
なし	なし リハビリテーション基礎評価学										
課題1	課題100% USBメモリー: 資料整理、提出課題保存用										
	3.9~15回講義の計10回課是	夏提出	提出課題は講義内 欠席や遅刻等で提	で個人がPCで 出できなかった	作成し、提出を -場合は、翌登	校日に					
			担当教員まで内容	を確認し、後日	提出すること。						

	科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数						
	地域理学療法学	専門科目	Ⅱ 部3年	講義	30	1						
担当教員 実務経験												
	木村 大	回復期病院にて1年、急性期	病院で3年間従事。併	行して訪問看談	美ステーションで	35年間従事。						
		講義	既要									
地域医療の成り立ち、仕組みを理解した上で地域リハビリテーションの意義を知り、地域包括ケアシステムの理解やチームアプローチの必要性、介護保険領域を中心とした施設の仕組みを学ぶ。												
講義目標												
 - ,_	地域リハビリテーションの意義や関連する法律や制度を理解する。											
【一般 	一般目標】介護保険制度の各サービスを理解し、その中で理学療法士の役割を理解する。											
	今後の理学療法士の地域での役割について理解する。 地域リハビリテーションの意義や関連する法律や制度が選択できる。											
了红色	=				キス							
【1] 到J		[]]介護保険制度の各サービスを理解し、その中で理学療法士の役割を列挙できる。 今後の理学療法士の地域での役割について選択・列挙できる。										
回数	/		業内容									
			ンテーション									
1	スクエン											
2			ー リハビリテーション	<u> </u>								
			問、通所 									
3	介護保険領域のリハビリテーション② 施設											
4	生活環境論① (住宅改修)											
5	生活環境論② (住宅改修)											
6	生活環境論③ (住宅改修)											
7	リハビリに関わる関連職種											
8	講義内試験① リハビリに関わる関連職種②											
9	リハビリテーション総合実施計画書作成①											
10	リハビリテーション総合実施計画書作成②											
11	高齢者の特徴、簡易知的機能検査①											
12	高齢者の特徴、簡易知的機能検査②											
13	終末期における理学療法 理学療法の目的、関わり											
14	産業、災害、国際分野のリハビリテーション											
15			内試験②									
	指定教科	斗書		参考図								
なし			CrossLink 理学療法 15レクチャーシリー			学						
講義内	内試験80%+講義内課題200		実技の身だしなみは実技教室ではクリッ	は【講義に関す	る注意事項】	こ準じること						

科目名			科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
地域理学療法学演習		習	専門科目	Ⅱ 部3年	演習	60	2					
	担当教員 実務経験 実務経験											
大野 京介 急性期病院において整形・中枢神経系理学療法中心に6年間従事。 講義概要												
理学療法士として、介護保険領域を中心とした居宅サービスや施設サービスの取り組みを学習する。												
講義目標												
ICF(国際生活機能分類)の目的や構成を理解する。												
【一般目標】学校保健および特別支援教育における理学療法を理解する。												
	演習(グループワークや個人課題)を通して、地域における理学療法業務を理解する。 ICF(国際生活機能分類)の目的や構成を説明できる。											
 【行動	ICF (国际生活機能分類)の目的や構成を説明できる。 【行動目標】 学校保健および特別支援教育における理学療法を説明できる。											
	グループワ	一ク(症	例への居宅サービスや施	設サービスの検討)したことをす	発表できる。						
回数	回数											
1				ンテーション 生活機能分類)								
	ICF (国際生活機能分類) ICF (国際生活機能分類) <小テスト>											
2				<資料作成>								
3		個人課題 <資料作成②><発表>										
4				 へてのポジショニン☆ 『ワーク・発表>	グ							
5	<グループワーク・発表> 集団体操(棒体操)											
6	<グループワーク> 集団体操(棒体操)											
	<発表> 学校保健について											
7	字校保健について <グループワーク>											
8	学校保健について <グループ発表>											
9	在宅復帰へ向けての検討 <グループワーク①>											
10	在宅復帰へ向けての検討 <pre> </pre>											
11	在宅復帰へ向けての検討											
			在宅復帰	·プワーク③> へ向けての検討								
12	<グループワーク④>											
13	在宅復帰へ向けての検討 <発表>											
14		論文 <検索・作成①>										
15			< 検索									
	指	旨定教科			参考図	書						
なし				ICFコアセット 臨床	実践のための	マニュアル						
				トータルケアをめざ			ノョニング					
		≘ar chi → `	+	完全図解 遊びリテ								
一												
成績:課題65%+発表30%+小テスト5%				実技の身だしなみは【講義に関する注意事項】に準じる 実技教室はクリップボードを使用すること								
				大阪 土ほうりり	か 「で医力」	, acc						